



あけぼの

第49号 2023. 3. 1
宇和特別支援学校
(知的障がい部門)
図書館発行

デジタル化の波によって、本もアナログの紙から電子デバイスに移り変わるうとしています。しかし、皆さんの周りには幼い頃に読んだ絵本や図鑑が大切に残っているのではないのでしょうか。そして、それを手に取ると、本から漂う匂いや重み、または触感によってタイムマシンに乗ったかのように当時の記憶が蘇ることと思います。スマートフォンやタブレットで読み返す絵本にはない魅力だと思います。やはり、私は紙の本が好きです。

ところで、「本は人を豊かにする。」とよく言われますが、皆さんはその理由を考えたことがありますか。私はその理由を「人は不十分な点を補完するときに想像力や創造力が培われ、問題解決能力が育つ。そして、本は他のメディアと比較すると情報量が少なく、不十分な点が大いにある。」と考えます。その理由を読書と映画鑑賞を比較しながら考えたいと思います。

最近、芥川賞や直木賞、本屋大賞などを受賞した有名な作品を原作として映像化されることが多くなってきました。皆さんなら、本を読みますか。映画を観に行きますか。それとも両方ですか。人は情報の八割以上を視覚によって得ています。情報量が多いと言うことはクイズでヒントが多いことに似ています。ヒントが少ない難問で頭を痛めているときは、少ない限られた情報を元に思考を巡らせ、それらに経験や知識を関連付け、不足している空白を補い、そこから答えをひねり出そうと脳をフル回転させます。しかし、ヒントが多いとすぐに答えは完成され、正解にたどり着いてしまいます。本はヒントの少ない問題で、映画はヒントの多い問題なのです。人は本を読みながら、そこには描かれていない登場人物の様子や風景を想像します。読者自身が独自の世界を作り上げることができのです。しかし、映画ではプロデューサーや監督が文章で描ききれなかった部分を補完するかのようになり、キャラクターや演出を考え、登場人物の風貌や衣装、周囲の風景を映像化しています。だからこそ、原作がある映画は賛否両論に分かれやすくなるのだと思います。原作が本の場合は、読者個々が独自のキャラクターや脚色を考えながら読み進めているはずですから、目

「読書でしか学べないこと」



校長 松本 淳

の前の映像と合う、合わないが起きても当然のことです。裏を返せば、読書をしているときは読者自身がプロデューサーであり、監督なのです。クリエイティブな一時です。そして、本から作り出される世界は読者である皆さんの心の在り方によっても変化します。一度読んだ本を少し経ってから読み直すと、以前とは違う新たな情景が見え、新たな感動が生まれるのはそのためです。何度でも楽しめるということ。ただ、私は映画を否定するつもりはありません。映画も大好きです。映像美を堪能したり、名優の演技に感動したりすることも素晴らしいことです。しかし、読書でしか感じられないもの、読書を通じてしか成長できないことがあるのは確かです。

ぜひ、皆さんもお気に入りの一冊を見付け、名プロデューサー、名監督として、その本の中に自分の思い描く世界を演出してください。その大切な時間が皆さんをきつと成長させてくれるはず。目



読書感想画



「かぐやひめとぼく」
小6星 松下晟風



「エルマーの冒険」
中2A 稲田京佳・斧松吾
清水相李・亀井琉生・森脇颯琉



「海の中のきれいな船」
中2D 犬飼さくら



「虫の目レンズで
のぞいてみたら」
中2B 福原悠太

読書感想文

ネイマール ピッチでくり出す魔法

高等部 一年B組 大西祐希

僕の兄はサッカーが好きで、小学校五年生から今もサッカーをしています。好きな選手はネイマールやメッシです。その影響でサッカー関係の本が家にあります。そこで僕もネイマールについての本を読むことにしました。

ネイマールは、ブラジル代表の不動のエースとして、世界中のサッカーファンを魅了しています。貧しい家庭でも、明るく前向きに育つ少年を支えたのは、父親をはじめとする家族の愛情でした。元プロサッカー選手の父の教えを受け、少年ネイマールがスターへの階段を駆け上るのです。

最初のチームのバイシャーダ・サンチエスタの室内フットコートは、初歩レベルの少年のコートですが、ここでスタートを切るようになります。

二〇〇九年三月七日、ネイマールは試合に出られるのも分からないままベンチに座っていました。後半十三分、試合に出ることになり、あこがれのロナウドと同じ舞台に立つことができました。ロナウドは、パワー、スピード、テクニック全てを持っています。

ネイマールは「自分のサッカーで見ている人も自分自身も笑顔にできればいいと思うんだ。」と言っています。僕は陸上をしています。短距離が専門ですが、走っているときは、と

ても集中できて楽しいです。タイムが伸びるとうれしので、日々努力をしています。今では自分が達成感を得るために走っていました。が、これからは走っている姿を見た周りの方々が笑顔になれたらいいと思います。

この本を読んで、少し視野が広くなりました。これからも周りの人に助けてもらいながら、みんなに元気と勇気を与えられるように走り続けたいです。



猫のお告げは木の下で

高等部 二年F組 浦賀千尋

「あなたは運がいい...」このお尻に星のマークがついた猫「ミクジ」に出会うと、一匹の猫のお告げによって、今まで気にも止めていなかった大切なことに気づかされていきます。

中学生の頃、この本の作者「青山美智子」さんの「鎌倉うずまき案内所」という本に図書室で出会いました。この本も面白かったのですが、その後、本屋で同じ作者の「猫のお告げは木の下で」という本を見付け、興味を持ちました。この本は短編小説で、七人の主人公たちの止まっていた人生が「ミクジ」という猫のお告げによって前へと進みだしていくお話です。

このお話にはたくさんのいい言葉が書いてあります。そして読んだ人の心に何かしらピタリはまるフレーズが必ずあります。私はこの本に書かれている言葉は、きつと「ミクジ」からの私たちへのお告げだと思っています。

私の心に残ったフレーズは二つあります。一つ目は「悔しさも苛立ちもどうでもよくなるっていいのが、人生を平穩に過ごすためにとっても大事なことだ。」という言葉です。私はいつも悲しかったり、悔しかったり、苛立ってしまうと冷静になることがとても難しいのです。なので、いつも冷静にいられば、きつと楽に生きられるのだろうと感じました。

二つ目は「悔し涙が出てくるときって、でっかくなっている最中なんだからな。」です。悔しいことは、自分の心が大きくなっていて最中なんだと思うと、少し誇らしくなるような感じがします。

一匹の猫「ミクジ」のお告げによって主人公たちの人生が前へと動き出しました。私もなんだか主人公たちのように「ミクジ」に背中を押してもらったような気がしました。これからのこの気持ちを忘れず頑張りたいと思います。



卒業しよう！ めんどくさがり

高等部 三年F組 吉川郁弥

「卒業しよう！ めんどくさがり」の本は、自分に必要なことを教えて、考えさせてくれる本です。この本にはいろいろな考えを持つ人が登場します。例えば、朝起きるのが面倒な人、自分でやることは分かっているけど「後でやる。」と言って後回しにしてしまう人など、この本の中にはたくさん出てきます。

僕も、やるべきことは分かっているけど、「後からやる。」と言って、やるべきことから逃げてることが多いです。僕は授業でノートや教科書を開くのが面倒で、開こうとしないことがあります。でも、この本を読んで、少しでも面倒な気持ちをなくすようにするために、一生懸命授業や先生の話を聞く必要があると思いました。

また、僕はあんまり人の目を見て話すことができないので、この本を見てそうゆう苦手なことでもしつかり人の目を見て話せるようにしたいと思いました。この本を読んで自分でも工夫して生活をしていきたいと思っています。



図書委員会の活動



本校の図書委員会は、高等部一年生～三年生で活動しています。

主な活動は、月に一回の委員会とお話会、週に一回の昼休みの図書の貸し出し当番などです。昼休みや、委員会の時には図書の整理も行っています。毎月のお話会では、図書委員が絵本のページを分担し、練習をして本番に臨んでいます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策をして、久しぶりに図書室でお話会を実施しました。クリスマスお話会には、たくさんのお話会が聞かれました。生徒が聞きに来てくれて、うれしかったです。

多読賞

本校では、「児童・生徒の読書意欲を高める」ことを目的として、毎年多読賞の表彰を行っています。一月末までに目標読書冊数に達した十二名が表彰されます。

- | | |
|---------------|--------|
| 高等部 (五十冊以上) | 有友 証矢 |
| 一年B組 | 野本 爽太 |
| 二年C組 (三十五冊以上) | 加藤 秀明 |
| 小学部 (二十冊以上) | 永易 三喜也 |
| 四年月組 | 竹内 柊亮 |
| 五年月・星組 | 東優 月 |
| 六年月・星組 | 野本 爽太 |
| | 沖田 聖翔 |
| | 塩見 蓮 |
| | 増田 煌大 |
| | 松下 晟風 |

私は、図書委員として昼休みの当番や、お話会を行いました。

クリスマスお話会には、たくさん聞きに来てくれてうれしかったです。

2年G組 中川 凜

